

イノベーションマネジメント研究科 学習支援計画書（シラバス）

※ 欠席・遅刻する場合は、事前相談/連絡を徹底してください。（連絡先：虎ノ門事務室 [メールまたは電話]）

※ 授業中の食事は控えてください。携帯電話はマナーモードにするなど、受講するにあたってのマナーをお守りください。

科目名	科目コード	単位数	開講期	VOD閲覧
技術標準化政策特論	Z 142	2単位	2期 (前学期)	学内・学外
Technology Standardization Policies				
科目分野	課程領域			
技術標準化戦略	イノベーションマネジメント共通科目			
担当教員名	メールアドレス	連絡方法 / オフィスアワー		
長野 寿一 上條由紀子	—	メールアポイントにて随時 メールでの質問、相談も可		

関連している科目(履修推奨科目)		
技術標準化要論	技術標準化と経営戦略特論	情報通信標準化特論
交渉学要論	国際交渉特論	

授業の概要と到達目標

授業の主題と概要

技術革新のスピードが速まり、経済のグローバル化が進展する今日、「標準化」の重要性が国内外で指摘されている。特に、情報通信・IT分野では、一製品を製造するに当たり多数の技術の組み合わせが必要になることから、技術要素間のインターフェースを提供する役割を果たす「技術標準」の重要性が高まっている。企業にとっては、研究開発の成果たる自社の技術等について、知的財産として保護・活用するだけでなく、国際的な標準化活動を行うことにより、グローバルに市場を獲得し、利益を確保するための戦略が必要となる場合が多々ある。しかしながら、企業にとっての「標準化」の重要性、「標準化活動」の進め方について十分な理解及び対応はなされておらず、また、「標準化」は政策的側面を併せ持つことから、我が国として国際的に標準化活動をどのように進めていくべきか、も重要な論点である。

本授業では、このような背景や「技術標準化要論」で学習した内容を前提としながら、標準化政策論として、①日本における標準化手順、②国際標準化手順、③WTO/TBT協定、④適合性評価、⑤日本の標準化政策、⑥国際標準化機関及び諸外国の標準化政策、⑦マネジメントシステム規格及び社内標準化、⑧計量標準及び計量標準の国際制度、⑨技術標準化と競争政策(独占禁止法との関係)について、法律、条約、手順(ISO/IEC Directives)等も参照しながら学習するとともに、実務の現場で活躍されているゲストスピーカーによる講義を交えながら学習する。なお、技術標準化要論及び技術標準化政策特論を履修することにより、標準・標準化全般に渡る基礎的な知識及び標準化活動における考え方について全般的に修得することをねらいとする。授業の概要としては以下の通りである。

1. 授業の形式は、社会人を対象とした大学院の講座であることから、講義を通じた基礎的知識の修得に留まらず、ゲストスピーカー及び担当教員との討議を通じて、実践にも活用できる知識や考え方、応用能力を修得できるように進める。
2. 授業は、上記①～⑨のテーマに基づいて講義を行い、標準・標準化全般に渡る基礎的な知識及び標準化活動における考え方について学習する。
3. 講義毎に、感想及び疑問点をまとめたレポートを週週に提出することとする。また、課題図書を指定し、概要・感想をレポートにまとめた形で提出することを予定している。

到達(修得)目標

標準・標準化活動全般に関する基礎的な知識及び標準化活動における考え方について修得することを目標とする。標準・標準化の持つ様々な側面とそのダイナミズムを理解し、①日本における標準化手順、②国際標準化手順、③WTO/TBT協定、④適合性評価、⑤日本の標準化政策、⑥国際標準化機関及び諸外国の標準化政策、⑦マネジメントシステム規格及び社内標準化、⑧計量標準及び計量標準の国際制度、⑨技術標準化と競争政策(独占禁止法との関係)といった事項を説明できる能力を獲得することを目標とする。

受講対象者

ビジネスや知財経営に資する標準化活動に関心を持ち、標準・標準化に関する基礎的な知識・考え方を修得することに意欲を持つ方(企業における事業戦略立案担当者、標準化活動業務担当者、知財担当者、官公庁の知財・標準化政策立案担当者など)を対象とする。なお、本授業は「技術標準化要論」とともに、標準・標準化全般に渡る基礎的な知識の修得を目指しており、本授業で学んだ知識をベースに「技術標準化と経営戦略特論」、「情報通信標準化特論」、「国際標準化実務特論」において、実務経験に基づいた実践に役立つ知識、ツール、事例やノウハウについて学習することが望ましい。また、標準化活動の現場で必要な交渉能力、コミュニケーションスキル等は「交渉学要論」「国際交渉特論」において学習することが望ましい。

履修上の注意事項やアドバイス

※ 本科目は、2コマ連続クラス(180分×8日間、合計16コマ)で構成する。

※ 欠席が、4コマ(90分=1コマ)を超える場合は、単位取得にも影響する。欠席の際は、事前連絡を徹底すること。

※ 担当する教員は実務家教員とする。

※ 授業にて配布する資料等教材や講義収録映像・音声の無断転用・転載を禁じます。

コンピテンシ修得目標					
知識領域 (Y軸)		ヒューマンパワー (Z軸)		思考プロセス (X軸)	
Y1: 基盤法令・テクノロジー		Z1: 問題発見力	○	X1: 企画	○
Y2: 応用法令・実務・テクノロジー	○	Z2: 独創力		X2: 構想	○
Y3: グローバル法令・実務	○	Z3: 問題解決力	○	X3: 調査・分析	○
Y4: マネジメント	○	Z4: プレゼンテーション力	○	X4: 設計・開発	
Y5: 戦略立案	○	Z5: 変革推進力		X5: 変革	
Y6: 標準化	○	Z6: コミュニケーション力	○	X6: 導入・運用	
		Z7: リーダーシップ力		X7: 評価・検証	
		Z8: ネゴシエーション力		X8: リーガルマインド	
		Z9: オーナーシップ力		X9: ライフサイクル	

プラクティカム		
イベント / ケース	教育技法	マテリアル / ツール
1 各自が出席レポートを作成し、その内容について授業において発表し、全体討議を行う	個別発表・討議	教室、PC(PPT)

評価の方法		
(総合評価項目と割合)	評価の要点	
平常点(講義参加)	10%	毎回、事務局より出席簿を準備する。
出席レポート(毎回提出)	30%	講義毎に、感想及び疑問点をまとめた出席レポートを翌週に提出することとし、その内容につき30%で評価する。
課題図書レポート	20%	課題図書を指定し、概要・感想をレポートにまとめた形で提出することとし、その内容につき20%で評価する。
期末試験	20%	選択肢式期末試験を最終日に実施し、その結果につき20%で評価する。
講義中のディスカッションへの貢献度	20%	最低2回のプレゼンと毎回の講義中のディスカッションへの貢献等につき20%で評価する。
合計	100%	

テキスト・参考図書など	備考
※ 追加する場合を含め、一部変更となる場合もございますので予めご了承ください	
テキスト (購入が必要) 参考図書 (購入は任意・講師推奨)	特になし(必要に応じて、各回資料を配布する) ①「コンセンサス標準戦略—事業活用のすべて」(2008)新宅 純二郎・江藤 学 編著 (日本経済新聞出版社) ②「パテントプール概説—技術標準と知的財産問題の解決策を中心として」(2006)加藤 恒 著 (発明協会) ③「世界市場を制覇する国際標準化戦略—二十一世紀のビジネススタンダード」(2008)原田節雄著 (東京電機大学出版局) ④「標準化戦争への理論武装」(2007) 山田肇著 (税務経理協会) ⑤「技術力で勝る日本が、なぜ事業で負けるのか」(2009) 妹尾堅一郎著 (ダイヤモンド社) ⑥「オープン&クローズ戦略 日本企業再興の条件 増補改訂版」(2015) 小川紘一著(翔泳社) ⑦「ものづくりの科学史 世界を変えた《標準革命》」(2013)(講談社学術文庫) ⑧「知的財産と標準化戦略」(2015)藤野仁三著(八朔社)

参考URL
日本工業調査会サイト http://www.jisc.go.jp/ 日本規格協会サイト http://www.jsa.or.jp/default.asp 日本規格協会 標準化教材 http://www.jsa.or.jp/stdz/edu/bunya-1.asp 一般社団法人 情報通信技術委員会 標準化教育テキスト http://www.ttc.or.jp/study_std/stdtext_note/

コマ	学習内容	事前準備・課題	担当者	時間
1.2	オリエンテーション(授業の概要の説明)	特になし	上條	180分
	標準化政策論(その1) 日本における標準化手順 JIS策定手順等			
	イベント 講師及び受講生の自己紹介・授業進行説明/講義			
3.4	標準化政策論(その2) 国際標準化手順	第1回・第2回出席レポートを提出	長野	180分
	標準化政策論(その3) WTO/TBT協定の仕組み等			
	イベント			
5.6	標準化政策論(その4) 適合性評価について	第3回・第4回出席レポートを提出	長野/ ゲスト スピーカー	180分
	ゲストスピーカーの講義(その1)			
	イベント ゲストスピーカー:梶屋俊幸氏(パナソニック株式会社)			
7.8	標準化政策論(その5) 日本及び諸外国の標準化政策	第5回・第6回出席レポートを提出	上條/ ゲスト スピーカー	180分
	ゲストスピーカーの講義(その2)			
	イベント ゲストスピーカー:総務省 情報通信国際戦略局通信規格課 (予定)			
9.10	標準化政策論(その6) 国際標準化機関の標準化政策、知的財産権の課題	第7回・第8回出席レポートを提出	長野	180分
	標準化政策論(その7) マネジメントシステム規格、社内標準化			
	イベント 講義・全体討議			
11.12	標準化政策論(その8) 基準認証関連国際制度	第9回・第10回出席レポートを提出	長野/ ゲスト スピーカー	180分
	ゲストスピーカーの講義(その3)			
	イベント ゲストスピーカー:瀬田勝男氏(独立行政法人製品評価技術基盤機構認定センター技監)			
13.14	期末試験(選択式)	第11回・第12回出席レポートを提出	長野/ ゲスト スピーカー	180分
	ゲストスピーカーによる講義(その4) <技術標準化と競争政策～独禁法との関係性>			
	イベント ゲストスピーカー:池田毅氏(森・濱田松本法律事務所 弁護士)(予定)			
15.16	全体総括・質疑応答	第13回・第14回出席レポートを提出	上條	180分
	イベント			

※ 学習内容やスケジュールは、状況に応じて一部変更・改善が生じる場合があります。
講義収録は、特別講師を招く場合など、内容によっては収録できない場合があります。